

神奈川県産植物の報告 (その3)

大 谷 茂

New contributions to Florula Kanagawensis (3)

Shigeru OHTANI*

(with 1 plate)

この報告は本誌前号(1961)に引続くものである。著者の発表した本誌三浦半島植物雑記の中にも本県植物誌に新たに補足すべきものや、また産地の追加を要するものが記録してあるが、本報告には除外してある。ここに報告せるものはすべて採取標本ならびに採取時の観察をもとに記述したもので標本は本館に全部保存してある。各項の番号は前号につづく。

本誌前号の本報告に対して貴重の御批判をたまわった諸先生に厚く感謝し以下その訂正をしておきたい。(109)タカトリランは *Epipogium* 属ではないようだと言われ、正宗敬博士はよせられた。(116)のイワカガミは再検するとやはり佐宗守氏の始めいわれたようにヒメイワカガミ *Shortia soldanelloides* (SIEB. et ZUCC.) MAKINO var. *ilicifolia* (MAKINO) MAKINO である。しかし全形がヒメイワカガミより大形で、葉の下面は多少灰白色をおび、葉縁の鋸歯が成葉で9—18もあって大きく、若い葉でも4—8の鋸歯があるので、このような型のものを、その変種ヤマイワカガミ *Shortia soldanelloides* var. *intercedens* OHWI というのであろうか、そのような感じのするものである。(124)のミヤマヒゴタイも問題の多いもので、下部の葉が大きく切れるか否か、頭花の数の多少、茎の翼の有無とその程度など全く変化のいちぢるしいもので、関東附近のものは根本的に再検討する必要があるのではなからうか。(118)シロバナコケリンドウについて鈴木吉五郎氏の報告によると、約40余年前に久米道民氏が東京在住のころ、明治の末期か大正の初期かその点明らかでないが、東京郊外の浮間原で採取され、その生品を横浜の富岡に住んでいられた広瀬巨海氏に贈られ、またそれを鈴木氏がもらいうけて今日なお継承されているという。しかし浮間原のようなところにコケリンドウが、はたしてあったであろうか。ハルリンドウならば不思議はないが、はたして浮間原産であろうか。そうだとするとその当時は珍しいものが浮間原にはあったわけである。

昭和36年、本県内初発見の羊歯は、オニヒカゲワラビ、ナガサキシダモドキ、フナコシイノデ、コバノイシカグマ、ミゾシダモドキ、カワズカナワラビ、シシミゾシダなど飯田和氏より報告があったが、同氏の発表する文献によることとして本誌にはあげない。また古瀬氏から林 弥栄博士によせられた報告によると、丹沢にミサワザミ *Cirsium misawaense* NAKAI の群生地があるという。ミサワザミはフジアザミ *C. purpuratum* (MAXIM.) MATSUM. と、タイアザミ *C. nipponicum* (MAXIM.) MAKINO var. *incomptum* (FR. et SAV.) KITAM. の間種で、フジアザミに比して頭花は小さく、総苞片の鋸歯は不明瞭で、花時に根出葉は枯れるものである。花の性質はフジアザミ式で、その他の部分はタイアザミのものである。その内に著者も確認したいとおもっているが、ここでは単に報告にとどめる。また西丹沢寄沢で秦野市立東中学校理科クラブ員がイワショウブを発見したというが著者はまだ確認していない。

本誌前号(1961)の著者の発表に対して御批判をたまわった正宗敬博士・水島正美博士・林弥栄博士ならびに鈴木吉五郎氏に謝意を表するとともに、この報告に際して助言をよせられた鈴木

* Yokosuka City Museum, Yokosuka Japan.

重隆氏、本県産植物の報告をおくられた飯田和氏、また多数の資料標本を提供された城川四郎、岩城 潔、斎藤照一、間瀬美保子の諸氏に深謝する。

A. この項のものは本県内で新たに発見されたもの、また訂正を要するものである。

146. 本県産チャボゼキショウ類について (Fig. 2)

本県植物誌 (1958) にハコネハナゼキショウ *Tofieldia stenantha* FRANCH. et SAVAT. を記録し、そこに“旧目録 (1933) にある *T. gracilis* FRANCH. et SAVAT. は *T. stenantha* と考える”と付加していることは極めて妥当の見解であって、原 寛博士のいわれるように *T. coccinea* RICHARDSON (1823) var. *Kondoi* (MIYABE et KUDO) HARA と学名を改めねばならない。元来チシマゼキショウ群は実に多形で厄介なものだが、原先生は北米北部の *T. coccinea* に大きく一種にまとめて、地方的著しいものを変種として取りあつかわれているのである。本州の低山地帯にはチャボゼキショウとかハコネハナゼキショウとよばれる一群があるが、何れもその花梗は開花時には斜上し、花後すなわち果実時に點頭する性質がある。これはフィールド植物学者にして始めてはっきりすることで採取時を異にする標本だけではわからない。そこでこの両者を同一変種としているのであるが、この二つの型が丹沢に発見されたので、報告をしておく。

(a) チャボゼキショウ型

全体が繊細の感じがする。葉の幅は 2 mm 以下で縁辺には細かい突起があってザラザラしている。たいていの葉は 3 行脈であるが、なかには僅かながら 4 あるいは 5 行脈のものがある。花茎の高さは 12.5—15.5 cm で、花序の長さは 1.5—2 cm ある。疎に花をつけ、花梗は斜上し花は點頭していない、葯は帯紫色をしているものである。

産 地 丹沢、桧洞

採集者 大谷 茂

本種は著者が昭和 36 年 8 月 28 日に上記のところで採取したもので盛花時であった。

(b) はこねはなゼキショウ型

本種は前記のチャボゼキショウよりは全体が大形である。葉の幅は 3 mm で狭線形、縁辺に細突起がない。葉脈はほとんどが 5 行脈である。花茎は高さ 16—18 cm、花序の長さは 3.5—4 cm。花梗は斜上し花は點頭しない。葯は淡黄色である。

産 地 丹沢—ユーシン沢

採集者 城川四郎

本種は上記のところで城川四郎氏が昭和 36 年 8 月 20 日採取したもので盛花時の標本である。ユーシンでは相当の群落を形成しているということである。葉縁に突起がないところは *T. nuda* MAXIM. のグループとも考えられるが、葉脈や花の形、葯の色などで *T. nuda* とは異なるものである。牧野・根本共著の日本植物総覧 (1931) では *T. nuda* は 3 行脈、花は鐘形、葯は帯淡紫色であり、*T. stenantha* は 3—5 行脈、葯は帯黄色として区別している。チャボゼキショウの一群であることにはまちがいないものである。

147. たまばしろよめな

本種の茎葉は卵形であるが、長さも幅も原記載より小さいので多少の疑問あるも形や欠刻状粗牙齒の様子その他の点がよく似ているものである。

産 地 丹沢、桧洞

採集者 城川四郎

本種は上記のところで昭和 35 年 9 月 29 日に城川四郎氏が採取せるものを考定したのである。本種は北村博士が発表されたもので (1936) あるが、シロヨメナの変種とするよりもむしろ大井博士のいわれるようにサガミギクの一型にすぎないと思われる。本種はタマバシロヨメナといわれた型のものであろう。丹沢にはサガミギクとともに存在する。ちなみにサガミギクは丹沢の玄倉が Type locality で、横浜植物会の発起人として同会につくされた原虎之助氏が採集した標本をタイプとして牧野先生が記載発表したものである (1916)。

148. あかいしこうぞりな (Fig. 1)

本種は全体に剛毛少なく、葉は線状披針形でせまく細く、その幅は最広部ではかって 7—11 mm, 7 mm のものが多数である。また葉縁に凸頭の歯牙がある。頭花は小さく、総苞は長さ 9 mm 以内で剛毛は少ない。

産地 丹沢, 松洞

採集者 岩城 潔

本種は横須賀植物会員、岩城氏が昭和 36 年 8 月 28 日に上記のところで採取せるものを考定したものである。本種はコウゾリナの変種で、この植物は北村博士の発表されたもので元来本邦の中部南アルプス地方に知られていたもので、丹沢地区にあるということは分布上から珍しいことであって、林博士も同じく丹沢の雨山峠附近で発見されたことを報じている (1961)。

149. ふくおうにな

本種は総苞の外片、内片とも背側に、あらい長い毛がまったくないものである。

産地 丹沢, コエド沢

採集者 城川四郎

本種は上記のところで城川氏が昭和 35 年 9 月 18 日に採取したものである。母種とのちがいは総苞に粗長毛がないことと、全体にその他の部にも毛の少ないことである。母種と区別するほどの必要もないが、母種とともに大山や丹沢にこの型のものが存在している。

B. 以下は新産地として神奈川県植物誌に補充すべきものである。

150. じがばちそう

産地 津久井郡, 石老山

採集者 斎藤照一

採集年月日 昭和 35 年 7 月 15 日

151. さわはこべ, つるはこべ

本種の葉は卵形で長い柄がある。茎や花柄が無毛である。

産地 丹沢, エビラ沢

採集者 城川四郎

採集年月日 昭和 35 年 10 月 23 日

152. おおばくさふじ

産地 足柄郡, 山北

採集者 城川四郎

採集年月日 昭和 35 年 11 月 8 日

153. ひめあかばな (Fig. 4)

本標本では葉は狭披針形で幅は 2 mm 以下である。葉縁に少数の低い鋸歯がある。茎の高さは一つは 14 cm, 他の一つは 10.5 cm。地下茎があって、その先に越冬芽がある。がくの先は微凸

頭。果実は長いもので 2.3 cm, 果柄は 1.2 cm のものである。

産地 丹沢, 神の川林道

採集者 城川四郎

本種は昭和 36 年 9 月 22 日に上記のところで城川氏が採集した標本を考定したものである。本県の植物誌には丹沢山で奥山, 金井両氏が採取したことがあげてある。

154. しらねせんきゅう, すずかぜり

本種の分果の背肋は脈状または稜状で翼とならないものである。

産地 丹沢, 犬越路

採集者 城川四郎

本種は城川四郎氏が上記犬越路越しの折に昭和 35 年 10 月 7 日採取したもので県植物誌に塔ヶ岳があがっているものである。同氏はまた本種を西丹沢の簗沢でも昭和 35 年 10 月 16 日に採取し, 標本が本館にある。

155. やまぜり

本種はがく歯が小さいが三角形ではっきりしている。葉は一回 (2) 3 出複生で終裂片は卵形。葉には毛がみえないが茎には毛がある。

産地 丹沢, 大倉～塔ヶ岳間

採集者 城川四郎

本種は上記のところで昭和 35 年 11 月 1 日に城川氏が採集したものである。本県植物誌に横浜金沢の産地があるが著者はまだ同地ではみていない。葉には毛がおちたかまた始めからないのか本標本ではみえないが茎には明らかに毛があるので, このような型のものをケヤマゼリ form. *hirtulum* (HIYAMA) HARA というのであろうか。

156. いわなんてん

産地 丹沢, 大滝沢

採集者 城川四郎

採集年月日 昭和 35 年 10 月 16 日

157. まめあさがお

本種の茎は紫色で, 葉柄とともに毛が散生している。葉は普通は心臓状円形でわずかに 3 裂化しているものもある。花は白色で小形。苞も小形で, がくと多少はなれてついている。子房は 1 室である。

産地 津久井郡, 青根

採集者 城川四郎

本種は昭和 35 年 9 月 22 日上記のところで城川氏が採取し, ヒロハヒルガオかとされていたものである。本種はヒルガオ属のものではなくてサツマイモ属の北米原産のものである。概形はサツマイモを小形にしたようなもので, 戦後の渡来である。本県植物誌には浅井康宏氏が藤沢, 二宮辺に生ぜしことを報告している。

158. ふじてんにんそう

本種は母種の葉裏中肋上に開出粗毛が密布する一型である。

産地 丹沢, 大室山

採集者 城川四郎

本種は昭和 35 年 9 月 4 日に上記のところで城川氏が採取されたもので, 本県植物誌には産地として箱根, 山北があげてあるものである。開出粗毛の有無にも変化があるもので上葉の 1—3 個のものにのみ毛のあるものもあって中間形があらわれることは本誌前号で著者がすでにのべたところ

である。

159. おかうつぼ (Fig. 3)

本種は茎も鱗片葉もともに毛が少なく短い白軟毛がわずかに散生している。がくの白軟毛も少なく花卉にいたってはさらに毛が少ない。

産地 鎌倉, 七里ヶ浜

採集者 間瀬美保子

本種は上記のところで昭和 36 年 6 月 11 日に間瀬氏が採取したもので 10 数本出ていたが開花期をすぎて枯れていたものが多く貧弱ながらまだ花期のものを標本として採取持参された。同氏はすでに昭和 35 年 6 月 5 日にやはり上記のところで発見しているがこの時は採取しなかった。本種は母種の一型で母種がカラヨモギに寄生するのに比し本品種はオトコヨモギに寄生している。オカウツボはハマウツボの山地性であるのが普通だが、このように海岸に生じることは珍しいことである。もちろん七里ヶ浜にはカラヨモギに寄生するハマウツボも存在するのである。

160. なべな

産地 丹沢, 神の川

採集者 城川四郎

採集年月日 昭和 36 年 9 月 4 日

161. はこねぎく

産地 津久井郡, 石老山

採集者 斎藤照一

採集年月日 昭和 35 年 7 月 15 日

162. あわこがねぎく, きくたにぎく

産地 丹沢, 神の川

採集者 城川四郎

本種は昭和 35 年 10 月 23 日に城川氏が上記のところで採取したものであるが、東丹沢の愛甲郡清川村宮ヶ瀬で赤星直忠氏が昭和 36 年 12 月 7 日採取された標本が本館にある。

163. ほそえのあざみ

本種は花時には根出葉がない。頭花には細い柄がある。葉は長橢円状披針で羽状に中裂し、葉の切れ方は特異なので目立つ。太い刺針がある。総苞片は粘着せず反曲している。

産地 丹沢, 姫次

採集者 城川四郎

本種は上記のところで昭和 35 年 8 月 27 日に城川氏の採取したものである。本県植物誌には産地として箱根があがっている。

164. あずまやまあざみ

本種は花時の採取で根葉はすでない。下葉は羽状に深裂し、裂片の先は鋭くとがる。葉の下面には密に、くも状毛がある。葉のもとには細くなり茎を抱かない。頭花は上向きで総苞は筒形をなし、くも状毛が密にはえている。総苞は粘着しない。総苞片の先は鋭いトゲとなって非常に目立つものである。

産地 丹沢, 姫次

採集者 城川四郎

本種は昭和 35 年 8 月 27 日に上記のところで城川氏が採取したもので、これには根出葉があるが、同氏が同じく西丹沢の簗沢で昭和 35 年 10 月 16 日に採取したものには根出葉がない。本種は本県植物誌に記載があるが産地があがっていないものである。

165. みつばさわひよどり (牧野 1913)

本種は対生葉の各葉が3小葉のように全裂しているものである。

産地 丹沢, 姫次

採集者 城川四郎

本種は昭和36年9月18日に城川氏が上記のところで採取したもので、同氏はホソバナヨツバヒヨドリとしていたが、本種は輪生葉ではなく、対生葉が3小葉のように全裂したものである。本県植物誌に記録はあるが産地がないのでここに報告する。

引用文献

- 原 寛 1961: 日本産チャボゼキショウ属追補, 植物研究雑誌 36 (12), pp. 5-9.
 林 弥 栄外3氏 1961: 丹沢山塊の植物調査報告, 林業試験場研究報告 133, pp. 38-39, 85.
 北 村 四 郎 1939: コウゾリナに就いて, 植物分類地理 8 (2), pp. 123-127.
 神奈川県教育委員会 1958: 神奈川県植物誌, pp. 170-171.
 牧野富太郎・根本莞爾 1931: 訂正増補日本植物総覧, pp. 1570-1572. 東京.
 根 本 莞 爾 1936: 日本植物総覧補遺, p. 1075, 東京.
 大 井 次 三 郎 1956: 日本植物誌, p. 1242, 東京.
 T. MAKINO 1916: Contribution to Flora of Japan, *Aster trinervis* Roxb. var. *Harai* Makino, nov. var., J.J.B. 1 (1), p. 3.

Résumé

Since the publication of "Flora Kanagawensis" in 1958, the author has annually reported supplemental facts to the florula in order to record a more accurate list of plants in the area of Kanagawa prefecture. This is a report of new facts collected after the last report. But new-found plants and localities in the area of Miura Peninsula are reported under the article "Miscellaneous Notes on Plants in Miura Peninsula, Japan (3)". All specimens listed here are kept in the Herbarium of the Yokosuka City Museum. The numbers of items are continued from the last report, and the detailed localities and collectors are shown in the round brackets.

Part A: The following varieties and forms should be added to the florula.

146. On *Tofieldia*

T. stenantha FRANCH. et SAV. and *T. gracilis* FRANCH. et SAV. in the florula should be *T. coccinea* RICHARDSON var. *Kondoii* (MIYABE et KUDO) HARA. For many years it was thought that the plants of *Tofieldia* in Mts. Hakone and Tanzawa are *T. stenantha* FRANCH. et SAV. and *T. gracilis* FRANCH. et SAV. But it is difficult to distinguish them as different species. The Herbarium of the Yokosuka City Museum contains the specimens of two forms: i.e. *T. gracilis* type (Hinokibora, Mts. Tanzawa; Shigeru Ohtani), *T. stenantha* type (Yushinzawa, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)

147. *Aster leiophyllus* FRANCH. et SAV. *Harai* (MAKINO) KITAMURA forma *ovalifolius* (KITAMURA) OHWI (Hinokibora, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)

148. *Picris hieracioides* L. subsp. *japonica* (THUNB) KRYLOV. var. *akaishiensis* (KITAMURA) OHWI (Hinokibora, Mts. Tanzawa; Kiyoshi Iwaki)

149. *Prenanthes acerfolia* (MAXIM.) MATSUMURA forma *nipponica* (FR. et SAV. MATSUMURA et KOIDZUMI (Koedo-zawa, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)

Part B: New localities of the following species and forms should be added to "Florula Kanagawensis".

150. *Liparis Krameri* FRANCH. et SAV. (Mt. Sekiro, Tsukui-gun; Shoichi Saito)
151. *Stellaria diversiflora* MAXIMOWICZ (Ebira-zawa, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)
152. *Vicia pseudo-orobus* FISH. et MEY. (Yamakita, Ashigara-kamigun; Shiro Kigawa)
153. *Epilobium Fauriei* LÉVEILLÉ (Kannogawa-rindo, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)
154. *Angelica polymorpha* MAXIMOWICZ (Inugoeji-goshi and Hoki-zawa, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)
155. *Ostericum Sieboldi* (MIQ.) NAKAI (between Ohkura and Mt. Toogatake, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)
156. *Leucothoe Keiskei* MIQUEL (Ohtaki-zawa; Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)
157. *Ipomaea lacunosa* LINNAEUS (Aone, Tsukui-gun; Shiro Kigawa)
158. *Comanthosphace japonica* (MIQ.) S. L. MOORE forma *barbinervis* (MIQ.) KITAMURA (Ohmuro-yama, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)
159. *Orobanche coerulescens* STEPHAN forma *nipponica* (MAKINO) KITAMURA (Hichirigahama, Kamakura; Mihoko Mase)
160. *Dipsacus japonicus* MIQUEL (Kannokawa, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)
161. *Aster viscidulus* (MAKINO) MAKINO (Mt. Sekiro, Tsukui-gun; Shoichi Saito)
162. *Cirsium effusum* (MAXIM.) MATSUMURA (Himetsugi, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)
163. *Eupatorium Lindleyanum* DC. forma *trisectifolium* (MAKINO) HIYAMA (Himetsugi, Mts. Tanzawa; Shiro Kigawa)



Fig. 1. アカイシコウゾリナ
丹沢, 檜洞産
Picris japonica in Hinokibora,
Mts. Tanzawa, Kanagawa-pref.



Fig. 2. チャボゼキショウ類
丹沢産
Tofieldia coccinea var. *Kondoii*; *T.*
gracilis type, Hinokibora, Mts.
Tanzawa (right) and *T. Stenantha*
type, Yuushin, Mts. Tanzawa
(left).



Fig. 3 オカウツボ
鎌倉市, 七里ヶ浜産 間瀬美保子 撮
Orobanche coerulescens forma *nip-*
ponica in Shichiriga-hama, Kama-
kura, Kanagawa-pref. (Parasitic
plant; Host, *Artemisia japonica*
THUNB.)

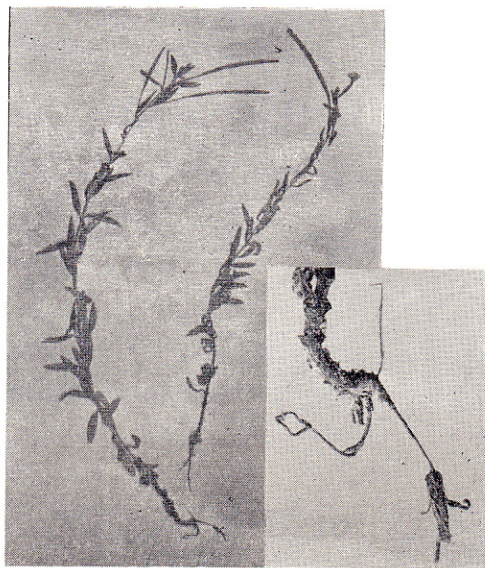


Fig. 4 ヒメアカバナ
丹沢, 神の川林道産
Whole plant (left) and Biennial bud (right)
of *Epilobium Fauriei* in Kanno-gawa, Mts-
Tanzawa, Kanagawa-pref.